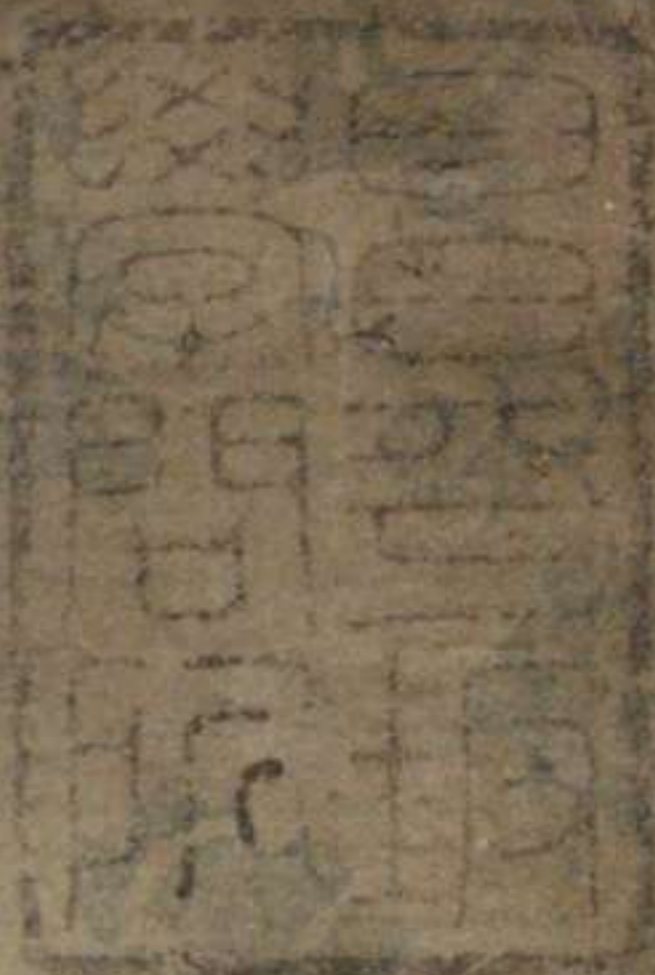


時代不同歌合



| | | |
|-------|---|-----|
| | | 和書門 |
| 二五七六一 | 類 | |
| 一三八一 | 函 | |
| 一三 | 架 | |
| 一 | 冊 | |

303

| | | |
|-------|---|----|
| 庫文閣内 | | 和書 |
| 二五七六一 | 類 | |
| 一三八一 | 函 | |
| 一三 | 架 | |
| 一 | 冊 | |



| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 25761 |
| 冊數 | 1 (1) |
| 函號 | 201 303 |

201-303





時代不同詩合

左

榜中人麻呂

山道赤人

中納言家持

冬儀小野篁

中納言行平

僧正遍昭

小野小町

在原業平朝臣



右

大納言經信

法僧道宗國司太政大臣

中納言國信

死行法師

皇太后宮右史後加

前大納言藤原

正三位家隆

後藤原實家前大臣右大臣



藤原敏行朝臣
伊坊
台初心之良親王
素性法師
在原元方
延表
平貞文
中納言益補
紀友則
紀君之

丹後
友原清補朝臣
中納言定家
欣理右史源季
中院右大臣
後法皇左大臣白左大臣
太宰大貳定家
持中納言俊忠
良暹法師
左京右史顯補

凡河内躬恒
土生忠岑
參議源等朝臣
大江千里
坂上是則
清原深養文
蟬丸
法順乙
中納言教忠
秋宮女御

崇式部
源俊賴朝臣
一宮紀伊
參議雅經
俊惠法師
友原能永朝臣
能因法師
崇法院
相控
式子内親王

右近

中務

源信明

諡德公

平益盛

源順

道經之母

大中臣能直

法原元補

源重之

少式部内侍

花園左大臣

羽衣能直

白河院

藤原秀能

宗然法師

小侍長

近知成仲

隆信朝臣

宗蓮法師

言内侍

花山院

惠善法師

名祿好忠

源道敏

左原長能

左原実方朝臣

藤原道信朝臣

中務口具年親王

言内侍

繼位

仁德大寺左大臣

左原基俊

大中納言正房

左近中将公衡

大藏口有家

待賢門院堀河

大僧正行高 三升寺者滿院

愚詠 在鳥羽院

權中納言所特

赤澤清門
和泉式部

殷富門院大補
宮内口

時代不同語合

左

榜中人丸

秋田河をみかゝる秋をみればこゝろのしよは町毎方じ
あ川のしよをねんのかゝるよのさくしとをひらりて
とちよの神方山のしよのさくしとをひらりて
とちよの神方山のしよのさくしとをひらりて

右

大綱を經信

夕に門田の稲をよとほきてあゝのしよやに秋風を吹
秋の葉をよとほきてあゝのしよやに秋風を吹
真陣凡やよとほきてあゝのしよやに秋風を吹

左

山邊赤人

何ものいふもみしむしと云く時にはももしも君が
百をたふす人のいふゆかれや様かきうてりすくし
和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
かきふくしゆり

右

法持合前書白左改大尾

まなや國津三社めくくひてうささちよ月けりし
おひのちかきくはくをゆきんをく山の端よかき
和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
且書白左

丸

中納言家持

まなや國津三社めくくひてうささちよ月けりし
おひのちかきくはくをゆきんをく山の端よかき
和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
且書白左

かきふくしゆり
まなや國津三社めくくひてうささちよ月けりし
おひのちかきくはくをゆきんをく山の端よかき
和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
且書白左

右

中納言國信

まなや國津三社めくくひてうささちよ月けりし
おひのちかきくはくをゆきんをく山の端よかき
和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
且書白左

丸

冬淺小野書

和方れうにふくしむしはかきふくしゆり
且書白左

右

右行法師

うづほしう程は又名をけり信濃川れあの一
秋あやうやうとや町由は信濃のきけよ
かけきて月やぬれ思はれおころふがけり

左

中納言行平

三別、ふとれ山の者よあふもろくまうい
まうとたうふあう、次丁の浦にゆかされ
さうは山者たえりやう川れあ代のうるおと
まう

右

白太夫文左衛門

年々事さうとれけりけりまう、けり神にま
まう、まうとれけりまう、けり神にま
まう、まうとれけりまう、けり神にま

せれ中よるこらりれおれい入山のたきま
唐をかん

左

偏正遍昭

破のとうれいさこのさうにんかんさ
見かんたのこはもまわぬりこけり
まう、まうとれけりまう、けり神にま

右

前大傷心慈圓

とせまよらうおなまよ何毎ま
に月けくほせの氏まわり
おろくまうやんらにんかんさ
まう、まうとれけりまう、けり神にま

左

小形小町

あまのこころにまはらうとせしむるは我れは
花のめいけいよふらふつよふ力やう流せし
ふえんてらうよおをれ中の人のこころの花をみる

右

正二位家隆

下おふらふまはれ夕まくれあまや
松のうしろわけこれ風よまもつらぬ月とら
これ村のうしろまもつらぬ月とら

左

在原業平

月やけぬまやじのまのぬかひのまの力に
たふそよひはけをのちを就田れ山よちとて

いしこころにまはらうとせしむるは我れ

右

正京極権守藤原良房

古里のうしろまはけのまのぬかひのまの力に
たふそよひはけをのちを就田れ山よちとて

左

藤原敏行朝臣

秋来ぬとけはくまもつらぬ月とら
秋来ぬとけはくまもつらぬ月とら

右

丹波

我れもやれれとわたりんこりくも鳴夕ぐせの大糸ふり
きよのし菊れきく露ふりいよきよてひりおひにおえき
今えといひえらうに七月れ有ぬの月ともしりつるふ

右

修理左更形寺

大舟川のせだれきよのふるくせだれきよとせらりやえん
ねうのよかえれうとせらりすうくせな神よ名いりけ
くせくせのこめとせらりしりせらりせだれくせ

左

在原え方

千しんせりせれいせきせりせりせりせりせりせりせり
き羽せりせりせりせりせりせりせりせりせりせりせり

立るうしあえれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ

右

中院左大臣

そしれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ
死る川せらりなれいかりせらりやじりれれれれれれ
あまといいりせらりせらりせらりせらりせらりせらり

左

延喜

何一川の止はしききききききききききききききききき
しきききききききききききききききききききききき
えれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ

右

梅は将督入る前園白鳥

いさかといふあさちし露ちりて心くさる風のまをうれ
思ぬれにさぬのひりふりたれも花ゆりおのまもさちりわ
かしくてかきうららとらわもりよまはれとてまの

左

平貞文

枕をさしきぬ今ささ恋と用せさあしをりしはか
びりやあまのここれ些しこいりよりりし名はあまん
ありをうぬ命さゆの程をうらうらとけくたはしとて

右

左筆大武主家

小田原にたのさうしと又後せい露はゆりまののし
かこもて及連いかけされやうこまはらつたれ白ひらん

後れそ成かけくなこといひさうしてまらつてやせし
中納言並補

左

中納言並補

及そ集れけりもに言砂れ露のりるをうらうらとまき
名取の本のさし露よおましりし露なまといまというは
及そ露のさうらうらと流は川いつときとてりあうらん

右

中納言後忠

さうてそよ露はささこれあまよそ昔れ法にささ連やが
我の恋あまのりもにされけりかりりしうらに流のそ
思かふとかくこもさし連伊現れ海の地ぬまのさしけり

左

紀友則

夕まし堂しりげよもゆきとも光るのまや人のほまれさ
何れも流のふれ中しうくになりう人をたぢひあらん
寺にのこふまなうもむれもあたるてんまな人さかた

右

良道法師

このほの花も我身もね流す後のまきとえとて換り
まひまに宿とまむさうしまたいけくもあうし秋の夕暮
いよとて寝さうし物と何れ流るるも見えともう月が

左

紀貫之

ま露も留もいづのこころ下まのこころなまはまにわ
むまもの志けよよにふふの井れあうす人よとれあ
れ

常川岩さうしなう行みれをやとんとたひひらうて

右

左京右史源朝

かほくやたうれふのさう花をみれ余はよ及やとん
く道と及うしけのういなりれもえとて記ゆちり余たり
おとまもいさうれふよ年成後て朽やとうかん花の埋ま本

左

凡内躬恒

なほくともまれひるしにわかくにすもえうしれふさう
位れえのむと秋う宿明りよととすりする身博しは
伊摺れ海よととすりすの友名すれととれとらぬを

右

紫式部

ちねにほろしとてふや、いのかさうアさうのそかひ
とびふたに山里れ秋の夜に月のひるしと漸く
るめれ月と清水にさうりか今世いこしとて換り

左

蟬丸

こまやこれりとも別してさうもさうねもあつら
よねういさうとつてさあさうとあさうとさう
秋風よさうはれれとさうとさうとさうとさうと

右

能因法師

夕れいさうさうしてさうれくさうのさ川らうさ
いのあまたとて秋月さうのさう人よあさうさ

秋風りさうとて川れさ

左

法慎公

いさうにさういさうとさうとさうとさうと
人さうねさういさうとさうとさうとさうと
わさうとさうと人さうのさうさうとさうと

右

景徳院

多川極けりたあさうにさうり白いさうとさうと
漸とさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

左

中納言教忠

おひ出で誰と人れ山祿ううきたるしり命がらうとい
志ねえらうしかけさじしやいかけうううううううううう
おひ出で誰と人れ山祿ううきたるしり命がらうとい
おひ出で誰と人れ山祿ううきたるしり命がらうとい

左

中書

秋風ゆきにけけてすさぬる花れ葉のうさるうううう
そーそよよううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう

右

花園左大臣

あらぬる花と友とてさへうううううううううううう
まうがうううううううううううううううううううう

我の志が今こちやうううううううううううううううう

左

源信明

わさう夜れ月と花とをたうううううううううううう
ほれくこまめ月月月月月月月月月月月月月月月月
おひ出で誰と人れ山祿ううきたるしり命がらうとい

右

刑部左大臣

きこふはうううううううううううううううううう
月ううううううううううううううううううううう
おひ出で誰と人れ山祿ううきたるしり命がらうとい

左

源信云

おそれしき人に行りて身はくはしむる
かきりたるしきとて一草枕流にたひきりて
此のまはらまはしたるにたぬ人よかりぬるべし

右

白河院

庭れおし月よりぬきてぬより本末に基はけき
大井川よりたれしとて川林にて昆の山おのり
多道のたもとたのり一息とれせき井清ぬ神ぬ

左

平益盛

著て行秋れくこよとくよの我がしゆひの
多しはらぬかよはけた人よき川の間こえぬ

志のまきとくよよわわ我意おやあり人のこよ

右

藤原秀能

吹風笑てくく神の砂れ丸とのねよ秋を来に
意とよよよの右衣はよよ神とくは
しやうれれや乃タツりてのよよよ

左

源順

まふの舟もれ川もよよとてしゆのよよ
おれかよよの月かよよのよよのよよ
おれすいよよのよよのよよのよよ

右

藤原法師

秋の来ぬ年いふらんにもよきぬよや萩の風はがらふらん
ふらぬねのけしきもかたけすの逢はりのあつた
てびたいつまの昔もあつたにうんあひかりとも人はあつた

左

道徳の母

かげきほひりわが夜はあつたにうんあひかりとも人はあつた
あえあつた新もあつたにうんあひかりとも人はあつた
つ風はあつたにうんあひかりとも人はあつた

右

小侍伝

いふはくさのり秋はあひかりの月はあつたにうんあひかりとも人はあつた
あつたにうんあひかりとも人はあつた

いふはくさのり秋はあひかりの月はあつたにうんあひかりとも人はあつた

左

大中臣能宣

あつたにうんあひかりとも人はあつた
あつたにうんあひかりとも人はあつた
あつたにうんあひかりとも人はあつた

右

祝部成仲

あつたにうんあひかりとも人はあつた
あつたにうんあひかりとも人はあつた
あつたにうんあひかりとも人はあつた

左

法原元捕

ちりわらぬかたに神とまかりけりまゝのむかひもこころ
大舟川おやと乃水ぬらうつらふたのうき善まやけぬ
しーこいひて善成ひもはにむすおのひきぬ身も
かきねもらぬがれぬもきこるわ麻持若かりも炭のむら
けりもきぬとこれのせーこいね浦のおきとけり舟人
我々のなまこいこれとよもはにらるれらるる神れり
左

右

陸信朝臣

其るものむらねわーとよこいひきぬをきぬ
のむらぬこいぬらぬれおのむらぬらけりね
左

源定之

流流山やまきけや下きけまをねいひふたささるるりり

右

藤原法師

善て行善ぬらぬとまきけまをねいひふたささるるりり
おのいけり神よけりもけりまをねいひふたささるるりり
よけりまをねいひふたささるるりり

左

高内侍

おろきれぬもらぬとまきけまをねいひふたささるるりり
ひりかかんやまきけまをねいひふたささるるりり
いもきけまをねいひふたささるるりり

右

藤原

ちりつるおまはれあをさうれとさうれにさう山川のあ
ふまもいぬ火のうらけに枕なまにのまき神のうらさ
一帯をよれ本れさひらよまうすちりつるおまはれあ

左

花山院

秋の暮れ月にうらけつるなくとまゆふゆふに
まのまきおまはれあとのうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに

右

後徳大寺左大臣

うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに

うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに

左

惠曇法師

我々の外面よたれにうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに

右

藤原基俊

夏は夜か月をうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに
うらけにうらけにうらけにうらけにうらけに

左

右藤原基俊

あしうしとうみしんあめえうしと草葉よはゆしあ
けられしこころの心はゆきしききあけてあはれはうしわ
入日さばふの心さこのさしうしあめとあめようし

右

希中納公匡房

さふれがりのさうさばりあはれはうしあめとあめ
しうきあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
風さしし伊勢はあめあめあめあめあめあめあめ

左

源道河

あめとあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ

あめとあめあめあめあめあめあめあめあめあめ

右

左近中将公衡

あめとあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ

左

荻原忠能

あめとあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ
あめあめあめあめあめあめあめあめあめあめ

右

大抵は有家

胡日付もつれどあさくつたはせかくきえぬ君も
久世は天はよとれが山家雲舟にさくとも印はれ海
心がうたえたるえなれ竹のうこのこと君の下とて

左

左原実方胡臣

是保れ病もうとせれたうとてしりてしりてしりて
うらむにらひさまりわふことれは下のだる藤城の心
いふうむのぼりももてまことせれたるよあふりか

右

待賢門院堀川

音方に若れけ道おとたゆがうせくことと考いさふり
あは破れ若ようとれは保かれやほほれ人よあふり保れ

うき人とせれぬをいさかひいさかひいさかひいさかひ

左

左原道信胡臣

秋まつさよなけうれ月みま神とのうは病とてさき
かきうらまはさおさとしてる左原をうらむにわいなさ
明ぬまは書れぬのといさうさうとてうらむとて胡の守れ

右

大信正行書

まらぬ神はひりもけよけよけよけよけよけよけよ
りあもにられはがし山梅花より卯まうらふ人いさ
まはいさとなさるるあさうとてわいせんらぬいさか神

左

中務口具平親王

今頃いよいよあひだんまかればおのころくつてくは
夕され萩の風のよまふらひつらふ萩もせもん
芋も重左地帯もすくもつれは月よつてふらふも月日

右

愚詠 好も羽院

さう笑をさうおれつらふのさうく一日もあぬあ
いさうし本れまのをれつらふんけふもすく時ぬさ
おとたゆかさう神もまよおまかちあはれさうけ

左

馬内侍

好ふくつれつらふんれつらふの本れますく時ぬ
いれますくあさうさうさうさうさうさうさうさう

あふはこまやうさうれつらふんれつらふんれつら

右

権中納言師時

あふはこまやうさうれつらふんれつらふんれつら
たふらふんれつらふんれつらふんれつらふんれつら
おふはこまやうさうれつらふんれつらふんれつら

左

赤深左衛門

赤深左衛門のさうれつらふんれつらふんれつら
はれつらふんれつらふんれつらふんれつらふんれつら
さうれつらふんれつらふんれつらふんれつらふんれつら

右

殿富門院大補

花よ我より人をもよほさる由よ嘆ちるよのこらけりよ
今こころをいふ人の定まらずに思ふ夜は月を
消えたる命のよき事にはけの好くはる葉も人

左

和泉式部

くさくさしくさ道よを入ぬささるさよさよのさる月
と流るるにけはさるは折るさるのさるさるさるさる
地よりけはけはけはけはけはけはけはけはけはけは

右

文内

さるさるの葉さるく月さるさるさるさるさるさるさる
まよさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

川流木のさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさる 百の千番

